山 行 報 告

1．磐梯・雄国縦走

（猪苗代スキー場→磐梯山→雄国沼→喜多方）

1986年2月8～10日
L大西真一・和泉　功・加藤正和

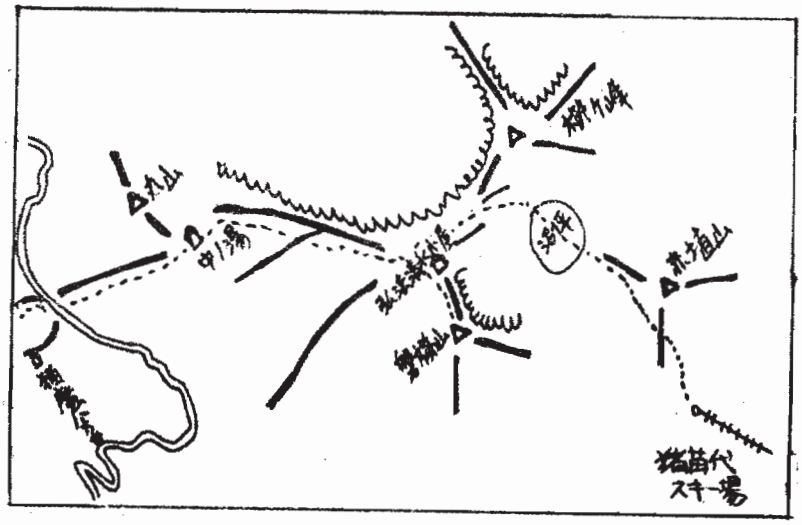
２月８日　晴。　福島(17:30)—車—猪苗代スキー場(19:20)

先に来ていた私は，後発２人と猪苗代駅で待ち合わせ，合流。猪苗代スキー場の駐車場にて幕営する。

２月９日　晴のち雪。　スキー場(7:40)—リフト—リフト終点(8:10)→沼ノ平(9:05)→弘法清水(10:20)→磐梯山頂(10:50)→弘法清水(11:00)→中ノ湯(12:05)→ゴールドライン(12:55)→猫魔ケ岳(14:40)→雄国沼・ビバーク地(16:40)

スキー場のリフトが動き出すのを待つて行動開始。リフトを乗り継ぎ，終点より歩き出す。天気はよい。磐梯山の頂まではっきり見える程の快晴。しかし，低気圧が近づいているので，午前中しかもたないだろう。

赤埴山の山腹をトラバースして沼ノ平へ向かう。今年は雪が少なく，ラッセルもほとんどない状態である。沼ノ平からの最初の急登を登りきると，地肌が露出していて，スキーでは進めなくなる。スキーを担いで，急斜面を２回登る。平地となった所で再びスキーをつけて歩き出すと，そこはもう弘法清水のすぐそばであった。



弘法清水にスキーをデポして山頂に向かう。積雪は少なく，ヒザより少し上ぐらいまでのラッセル。上部は雪がしまっており，なんなく頂上に着く。このころから空は雲におおわれ，視界もあま

りきかなくなる。

弘法清水でシールをはずし，スキーをつけて中ノ湯に向かう。樹林帯の中を稜線からあまり離れないようにトラバース気味に下ってゆく。傾斜がゆるくなった所が中ノ湯である。

中ノ湯からは夏道ぞいにゴールドラインに向かう。夏道は道幅が広いので，わかりやすい。12時55分，ゴールドラインに出る。今日はまだ時間があるため，雄国沼めざして出発することにする。

ゴールドラインからは，シールをつけて，猫魔八方台に向かう右側の夏道ぞいに登ってゆく。磐梯山を下り始めた頃から降り始めた雪がかなり強くなってくるが，視界はそれほど悪くないし，猫魔ケ岳の手前まではところどころに赤ペンキがついていて，わかりやすい。

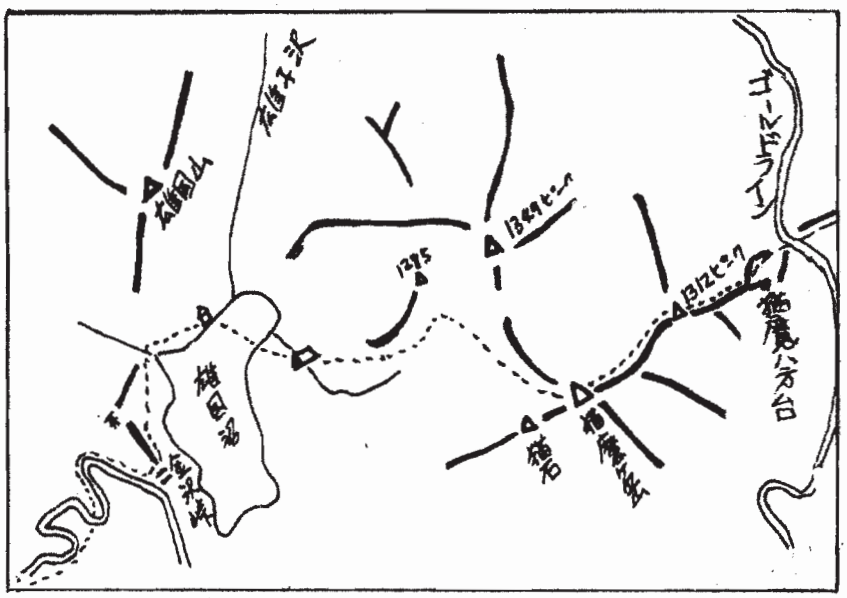
14時40分，猫魔ケ岳に到着。昨年３月に来た時の印象とは全く異なり，今年はだいぶ雪が少ないようである。猫魔ケ岳からは，昨年と同様に，稜線を北に向かい，途中から雄子沢出水口に直接向かうコースをとる予定で進みはじめる。しかし，この頃から視界は100m先も見えない位となり，当初の予定のコースからだいぶ下がった所を歩いてしまう。雄国沼にそそぐ沢の上部に出た所で，沢にそって下ることにする。平坦地となった所で16時40分。時間も遅くなったので，ここで幕営することにする。テントの中で現在地を検討して，雄国沼のすぐ近くまで来ているという結論に達した。シールをつけたまま進んでいたので，思ったよりは進んでいなかったようである。翌日，現在地の確認に誤りがなかったことが明らかになる。冬期間見通しの悪い時は，猫魔ケ岳より北西に向かい，沢に出た所から沢ぞいに下って，いったん雄国沼に出てから小屋をめざした方がわかりやすそうである。

２月10日　雪。　　幕営地(8:20)→雄国小屋(8:40)→金沢峠(9:20)→力清水(10:50)→林道入口(11:15)→バス停(11:40)

８時20分に歩き始め，沢ぞいに進む。５分程で雄国沼に出る。そこから雪におおわれた雄国沼の上を渡り，まっすぐ小屋をめざす。ガスの切れ間に雄国山が時折見え隠れし，真っ白な沼とまわりの雪におおわれた木々が幻想的な景色に見える。

まもなく雄国小屋に着くが，小屋のまわりはほとんど雪もついておらず，１階の入口(引戸)から出入りできるようである。

小屋からはほとんど夏道ぞいに進む。水道小屋の後ろで小沢を渡ってから，斜面をトラバース気味に登ってゆくと金沢峠に出る。峠から少し林道を下った所でシールをはずし，林道と沢をおりまぜて滑走する。



昔はバスが来ていて，バスの折り返し点になっていたという一の岩，二の岩，喜多方市内を望めるという喜望峰を過ぎて力清水となる。林道は雪が重くて，トップは少しも滑らないものの，セカンドとラストは，傾斜はゆるくとも滑るので楽である。

11時05分，除雪された林道(雄国線)となり，しばらくすると部落である。途中，雪がなくなった所でスキーをはずし，10分位歩いたらバス停となった。バスは，1～2時間おきにある。喜多方駅までの所要時間は30分程であった。

追記：昨年より噂となっていた猫魔ケ岳のスキー場の話が現実となり，1986年末の完成めざして工事にかかるそうである。磐梯山の周辺では，昨年オープンした猪苗代リゾートスキー場に引き続き，2年連続のスキー場開発である。このままでは，スキー場が磐梯山のまわりを一周することになりそうである。今までより簡単に雄国沼や猫魔ケ岳に入山できることになるわけであるが，私は少しもうれしいとは思わない。自然のままで残しておいてほしいものである。今年このコースを行けて良かったと思っている。　　(記・加藤正和)

2．安達太良山
(旧土湯スキー場から箕輪山)

1986年4月13日
L大西真一・加藤正和

旧土湯スキー場といっても，今では知らない人の方が多い。国道115号線が東鴉